

日本の文化的アイデンティティーの形成について
(2015年9月26日、於ザグレブ・ミマラ美術館「ジャパン・デー」)

駐クロアチア日本国特命全権大使
井出敬二

(以下は、井出大使が英語で話し、当館クロアチア人現地職員がクロアチア語に通訳した講演の概要である。)

本日は、「ジャパン・デー」にご参加頂き、誠にありがとうございます。日本の文化に対して強い関心を持っていただき、とてもうれしく存じます。

今年も日本文化を紹介する様々な企画を用意しております。そこで、日本の文化的アイデンティティーの形成が、どのようになされたかについて、クロアチア、ギリシャ、ロシアなどとも少し比較しながらお話ししたいと思います。(意見にわたる部分は私の私見です。)

日本を含めてこれらの諸国を比べてみますと、多かれ少なかれ全てに共通して言えるのは、ある民族の文化的アイデンティティーが形成される際には、外来文化からの刺激を受けつつ、文字の使用開始と一定程度の普及、神話の創造・確定や神殿・寺院の建設、対外関係活性化などが共に行われたということがあると思います。

ギリシャの場合は前8世紀～前5世紀、日本の場合は7～8世紀、クロアチアの場合は9～11世紀が大変重要だと思います。

一人の強大な国王が登場し彼の属する王朝が確立する。あるいは何らかの政治制度が確立する。新しい指導理念が求められ、政治的基調を何らかの哲学や普遍的な宗教が提供する。それは確定された文章表現で公に人々に示される。このプロセスがアイデンティティー形成に伴うと考えます。

日本については、7～8世紀迄に重要な出来事が起きました。

既に6世紀に仏教が日本に伝来しました。7世紀初めには当時の倭(あるいは和)(当時の日本はそう呼ばれていました)で最初の大寺院である飛鳥寺(法興寺)が建立されました。その際には韓半島から技術者が招かれました。漢字も4世紀頃には倭に伝わり始め、一定の時間を経て倭そして日本に定着していきました。7世紀初めに当時の倭が外交文書を隋に出しましたが、その時には倭の政府は漢文で文書を起案していました。

7世紀は東アジアでは動乱の時代でした。倭は当時の唐をモデルとした近代化を開始しました。唐の中華思想からの影響も受けました。

日本では「天皇」という呼称は、7世紀後半に使われるようになったと言われています。それ以前は「大王」(おおきみ)という呼び名でした。

また7世紀後半に「日本」という国名が決められたようです。対外的には702年に中国大陸に着いた第7次遣唐使の粟田真人が当時の周の皇帝・則天武后に対して「日本」か

らの遣いだと言ったのが最初だと言われています。それまでの「倭」という国名から、当時の倭の指導者達による決定により「日本」という国名が採用されたのです。これは「日出ずるところ」という意味があることは確かと見られます。つまり中国大陸から見て、「日出ずるところ」と自己紹介した訳です。

ところでギリシア人達は自らを「ヘレネス」と呼び、ギリシア語を話さない他民族を「バルバロイ」(Barbaroi: 意味不明の言語を話す者)と呼びました。「ヘレネス」とは、ギリシア神話に登場するデウカリオンの子の“ヘレンの子孫”という意味で、ギリシア人は神の血統を受け継ぐ勇敢な民族としてアイデンティティを形成していきました。日本人も自らを神の血統を受け継ぐものとして自己規定していきました。

「ヘレネス」は、前700年頃に活動した農民詩人であるヘシオドスが使ったのが最も古い用例です。前5世紀の歴史家トキュディデスは「ヘラス」という名前が古いものではないと指摘しています。

「クロアチア」(Hrvat)という名前については、私もいろいろ調べてみましたが、その起源がどこにあるのかについては、様々な説があり、これといった定説は無いように理解しております。

なおギリシャでは詩を書き記すことが、文字の輸入・普及の直後から開始されています。これは日本でも見られることです。

日本人のアイデンティティを形成する上で、日本語、日本の神話・歴史、日本の宗教がもり立てられるようになりました。ギリシャでも前8世紀に文字の利用が開始されるとともに、ホメロス等により神話も書き留められるようになりました。

日本では「紙」も大きな役割を果たしました。紙が発明されたのは、中国の後漢時代です。当時、官廷の役人だった蔡倫という人が、木の皮や麻などの植物繊維を砕いて抄いたのが始まりです。西暦105年のことでした。それまで使われていた竹簡や木簡と比べてはるかに優れた、書写のための画期的な材料であることが認められたのです。現代につながる製紙技法の誕生です。

蔡倫が考え出した製法は、610年に高句麗(朝鮮半島北部)を通して日本にも伝えられました。現在ある和紙(ユネスコ無形文化遺産です)は、この紙を改良したものといわれています。日本人は折り紙や包装などで紙を様々な利用しました。本日は、日本から折り紙の専門家をお招きしています。クロアチアが独立してから、日本から折り紙の専門家が来るのは初めてだと聞いております。本日はクロアチア折り紙協会の皆様と協力して、日本とクロアチアの折り紙作品の展示を行っておりますので、是非楽しんでください。

紙は西方へは、重要な東西交易路だったシルクロードを通して伝搬していきました。8世紀にサラセン帝国領内のサマルカンド、バグダッド、10世紀にアフリカのカイロ、11世紀にリビアへと渡っています。その後、モロッコを経て、12世紀の中頃にヨーロッパ本土に入りスペイン、フランス、イタリア、さらに15世紀になってドイツ、イギリスまで製法が

伝わっていったのです。

中国から1300年以上の長い年月をかけて延々と伝搬していった紙は、ルネッサンス時代を迎えていた当時のヨーロッパ社会で、グーテンベルグによる活版印刷の発明と相まって、近代化と文芸復興に大きな役割を果たしたのです。

8世紀中葉の日本の奈良時代につくられた「百万塔陀羅尼經」は、年代が判明していて、しかも現存する印刷物としては世界最古のものです。当時は歌集や経典、さらには史実の記録などに関する書写が盛んになってくる時代でした。日本にとっては紙が早くから利用できたことは大変幸運でした。

7, 8世紀には日本で仏教が振興され、仏教美術も発展しましたが、そこにはギリシャ、ローマ、イラン、中央アジアからの文化の影響を見ることができます。インドのガンダーラ仏にはギリシャ彫刻の影響があることは有名ですが、インド、中国、韓半島を通じて、日本にもその影響が及んだのです。日本の宮廷には、唐、朝鮮のみならず、インド、ペルシアからの僧侶なども招かれました。仏教には、民族や国境を越える、世界宗教的側面があることを指摘できます。

7世紀後半から8世紀にかけて万葉集という日本最初の歌集が編集されました。天皇、貴族から下級官僚、防人など、4500首が収められています。このような歌集が作られるにあたっては、中国文学の影響もあると見られますが、それでも一般人も含めた歌集が作られたことは画期的と言えます。和歌がやがて俳句につながり、そして今日クロアチアでも俳句が人気です。本日は日本から俳人をお招きして俳句講座を開きますので、是非ご参加下さい。また万葉集の歌を読めば、日本人が自然を愛したことがよく分かります。生け花は、このような日本人の感性を土台にして発達した芸術です。本日は華道の専門家による生け花作品も展示しております。

8世紀になると日本人自身が「古事記」（712年の作と言われてきましたが、後世の時代につくられた偽書との説もあります）、「日本書記」（720年）という歴史の記録を漢字で執筆し編集しました。これは奈良時代の指導者から見て、天皇家の由来を説明し、律令国家形成への過程を描いたものです。そして国家の事業としてこの書物は編纂されました。それ以前にも日本人自身による記録の編纂はあったのかもしれませんが、現存していません。いずれにしても、これらの書物（神話と歴史）が書かれたことも、日本のアイデンティティー形成に大きな影響を与えました。

8世紀から9世紀には「ひらがな」が作られ、多くの日本人が読み書きができることを大いに後押ししました。本日は、日本語教室を開きますので、ぜひ日本語について理解を深めてください。

また着物も平安時代にはより日本的なものに変化していきます。さきほど振り袖の着付けデモンストレーションを行いました。皆さんには浴衣の着付けをしていただきます。

鮎（寿司）はクロアチアでも人気が高まっていますが、元来は東南アジアで始まったものが日本に伝わりました。発酵の技術を使い、保存とともに「旨味」を引き出しました。

8世紀の日本の文献に鮭についての記述が見られます。本日は大使公邸の料理人が手巻き寿司を皆さんと一緒に作りますので、是非参加してください。

本日はクロアチア囲碁連盟の協力を得て、囲碁教室を開催します。9世紀に日本と唐の最強の囲碁の打ち手が対戦したことが記録に残っています。

ここでスラブ人の歴史との比較をしてみたいと思います。

スラブ系の民族が7世紀までに現在のクロアチアの土地にやってきて、現地の人たちと融合してクロアチア人ができたという説明を歴史書で読みました。925年にトミスラブがクロアチア王を名乗り、1102年にクロアチアはハンガリーに併合されましたが、それまでの間は、クロアチアのアイデンティティーが確立した重要な時期だと思います。9世紀に活動したギリシャ人コンスタンティノスとメソディオスが考案したグラゴル文字はクロアチア人に使われました。

既に述べた通り8世紀中葉には日本で紙が使われており印刷も行われていたのに比べて、クロアチアを含めた欧州に紙の製法が伝わったのは12世紀以降でした。クロアチア語がグラゴル文字で刻まれていたものが最も古いものとして発見されているものは11世紀後半につくられたものです。おそらく当時のクロアチアにも、様々な言い伝え、神話や歌、詩があったのですが、それがあまり残されていないことは誠に残念です。

同じスラブ人のルーシも9世紀にバイキング（スカンジナビア人）のリューリクを迎えて、ノヴゴロドに国をつくりました。彼らの歴史としては「原初年代記」が12世紀にできました。

結論

第1に、ある国の文化的アイデンティティーは、当該民族だけによって作られたのではなく、他の諸民族との接触や融合により作られたと言えます。日本における文化的アイデンティティーの形成にあたっては、当時の政治・外交・文化的情勢の中で、帰化人と元来の倭の住民達との協力・融合が大きな役割を果たしたと言えるでしょう。文化的アイデンティティーは、他人と接触することによってできていくものです。これはギリシャでもクロアチアでもロシアでも同じことだと思います。

第2に、文字の伝来、宗教の伝来は、国内支配体制の確立と一緒に進められた面があるとともに、それらを通じて他の諸国ともつながったという面もあるといことです。日本について言えば、韓半島、中国、インドと、更にはイラン、ギリシャともつながりを持ちました。

第3に、日本の文化的アイデンティティーの形成の歴史においては、7～8世紀は大変重要だと言えます。現在の多くの日本の文化の起源が、その頃に遡ることができます。それとともに、その後も日本の文化は様々な発展を遂げました。次回、このようにお話しをする機会が得られる時に、その後の日本の文化の発展をお話ししたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(了)